

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
レクリエーションアクティビティーⅡ Recreation Activity II		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(レクリエーションインストラクター資格申請に必要な科目)	レクリエーションアクティビティーⅠを履修済みの学生
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
レクリエーションアクティビティーⅠ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
加藤 秀治	本館2F	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
様々なレクリエーション財(素材)を実際に体験し、その楽しさをどのような支援の形にしていくのが良いのかを学ぶ。人々への日常的な楽しさや心地よさを提供する支援者としての役割を、演習を通して学ぶ。				
授業の目標				
①色々なレクリエーション財の楽しさについて、対象者に説明できるようにする。 ②対象者に応じたレクリエーションプログラムの作成ができるようにする。 ③レクリエーション支援についての基本技術が実践できるようにする。 ④人前に立つことに慣れ、楽しさを提供できるようにする。				
授業の方法				
実技とグループワークを中心に行う。また、スキルアップのため覚えたアクティビティを常に指導の場を意識しながら進めていく。人前での模擬指導も実施する。				
学習の成果(学習成果)				
①対象者に応じた幅広いレクリエーション財を提供し、技術を身に付けることができる。 ②それぞれの場面に応じた、レクリエーションプログラムの作成が出来る。 ③ホスピタリティなど基本的な支援スキルが習得できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業の進め方、成績評価などの説明 レクリエーション支援の実施⑤ 評価に基づくプログラムの改善			
第2回目	レクリエーション支援の実施⑥ 評価に基づくプログラムの改善			
第3回目	モデルプログラムの習得① 介護予防・音楽レク			
第4回目	モデルプログラムの習得② 幼児や児童を対象としたアクティビティ			
第5回目	個々の活動の習得① 歌			
第6回目	個々の活動の習得② ダンス			

第7回目	個々の活動の習得③ クラフト	
第8回目	個々の活動の習得④ チャレンジ・ザ・ゲーム①	
第9回目	個々の活動の習得⑤ チャレンジ・ザ・ゲーム②	
第10回目	個々の活動の習得⑥ スラックライン	
第11回目	個々の活動の習得⑦ ドッチビー	
第12回目	個々の活動の習得⑧ 総合演習 模擬指導①	
第13回目	個々の活動の習得⑧ 総合演習 模擬指導①	
第14回目	個々の活動の習得⑧ 総合演習 模擬指導①	
第15回目	振り返り、まとめ	
事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読んでおくこと 事後学習：実技の種目名や指導の進め方をノートなどを用いて振り返っておくこと	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	常にノートを取り、授業に集中している。意見を求めた際には、しっかりと意見を述べる事が出来る。グループワークでは、積極的に発言をしたり、コミュニケーションをとっている。
レポート	20%	毎回の振り返りシートに書かれている内容を評価
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	50%	アクティビティを選択し、模擬指導を行う
その他		
教科書と参考図書		
日本レクリエーション協会 『楽しさをおとした心の元気づくり』～レクリエーション支援の理論と方法～ 澤村博ほか「これからのレジャー・レクリエーション 余暇社会に向けて」 改訂3版		
履修上の留意点・ルール		
実技が多いため、服装や身だしなみに注意すること。体育館で行う際は食べ物禁止		